

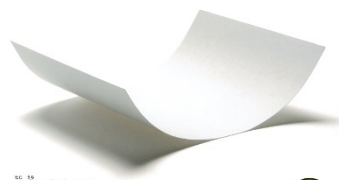
こどものとも 0.1.2.



ふわふわふうせん、かばさんのふうせん。いぬ、ねこ、うさぎ、ねずみ、ぶたなど、いろいろな動物たちがそれぞれ思い思いの乗り物に乗ってやってきます。手には色とりどりのふうせんを持っています。最後に、わにさんが大きなふうせんを膨らましています。さて、どうするのかな？

こどものとも 0.1.2.

しろいかみ



谷内つねお さく  
西山悦子 撮影

2

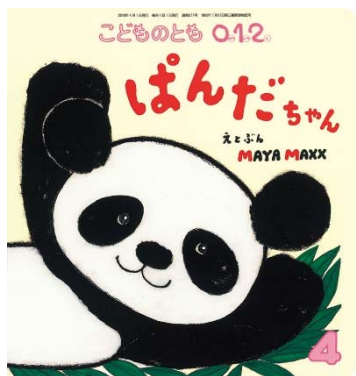
ぎこぎこ



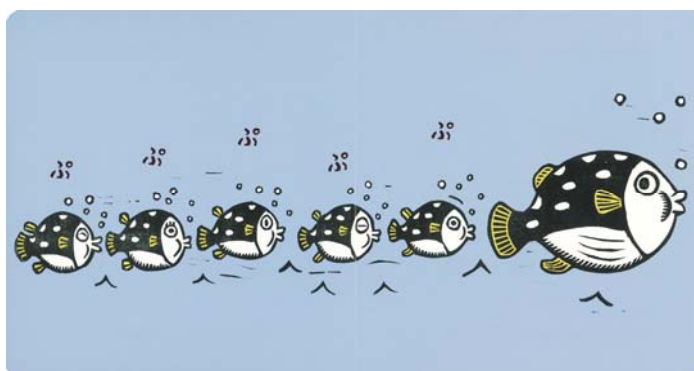
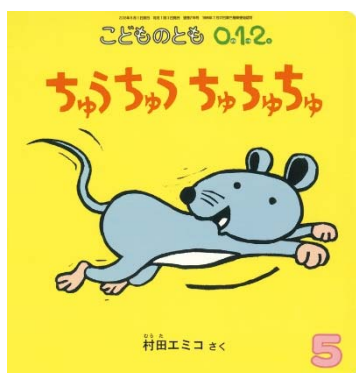
一枚の白い紙が、くるっと丸まります。ページをめくると、紙はさらにくるくるっと丸まります。折りたたまれたり、ぐじゅっと握られて小さくなったり、びりっとやぶれたり……。最後はびりびりにやぶれて、「ぱーっ」と飛んでいきます。長年にわたり紙の造形を手がけてきた作家が、さまざまに変化する紙の魅力をシンプルに伝える写真絵本です。



黒ねこがやってきて、白ねこに向かって「てをつなぎましょう」。「はい、つなぎましょう」と、2匹は手をつなぎました。手をつないだ2匹が、今度は赤いねこに「てをつなぎましょう」。「はい、つなぎましょう」と、赤いねこも手をつなぎました。大人のねこも子どものねこも加わって、みんなでどんどん手をつないだら……。ねこたちが次々に手をつないでつながっていく楽しさを、版画で描いた絵本です。



ぱんだちゃんは、竹を食べるのが大好き。「たくさん たくさん むしゃ むしゃ むしゃ」「ずっと ずっと むしゃ むしゃ むしゃ」。ときどき、木登りをして遊びますが、遊んだあとはまたむしゃむしゃ。食べて、遊んで、うんちして、眠る、天真爛漫なパンダの姿が、赤ちゃんの共感を呼ぶ絵本です。



「ちゅちゅちゅ」と走るお母さんねずみのあとを「ちゅちゅちゅちゅちゅ」とまねして走る子ねずみたち。子ぶたは「ぶぶぶぶぶ」、魚は「ぷぷぷぷぷ」と、親のあとを楽しそうに追いかけます。子どもはお父さんやお母さんが大好き！だからまねをするのはですね。並んで走ったり泳いだりする親子の姿をユーモラスに描きます。親子間の愛情が自然に伝わってくる、シンプルな擬音が楽しい絵本。



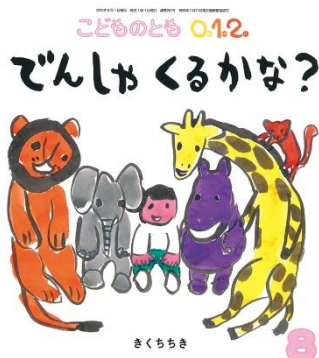
シャベルと  
いつも いっしょの  
なかよし だあれ



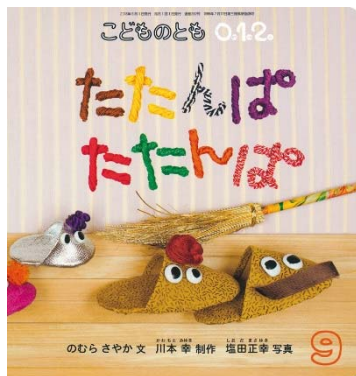
「スプーンと いつも いっしょの なかよし だあれ?」。バケツ、コップなど子どもの身の回りのものを繊細な貼り絵で描きます。ぼうしとくつのように生活のなかで一緒に使うことが多いものを「なかよし」とよんで、小さな子どもでも親しみをもって楽しめる「もの」の絵本です。温かみのある貼り絵が人気のみやまつともみさん。「0.1.2.」では、『たべたいな』『のりたいたな』に続く3作目になります。



「つん こん ぱっ」「おーん ぼくりこ」「ごどりご ぞりぞり」……。ページをめくると、ユニークな言葉と共に不思議な形が現れます。声に出して読んでいると、絵が生き生きと踊り出してくるかのよう。抽象の絵と独創的な言葉が赤ちゃんの感性に訴えます。思わず体が動いてしまいそうな、カラフルな色彩が魅力の楽しい絵本です。



「くるかな? くるかな?」、動物たちが電車を待っていると……。、「きたー!」ホームに滑りこんできた電車にみんな大喜び。動物たちは「くるかな? また くるかな?」と次の電車を待ちます。「きた きたー!」やってきた電車にまた大喜び。最後にやってきた電車に、みんなで「のりまーす のりまーす」。電車がくる喜びを動物たちと分かちあう絵本です。



「たたんぱ きたよ。たたんぱ きたよ。」カラフルなスリッパ「たたんぱ」たちが、ばんぱんぱん、たんたんたんとりズミカルな音を鳴らしながら、家の中を元気に動きまわります。たたんぱたちは上に上にと積み重なって、どんどん高くなっていきますが……。立体でつくられたたたんぱたちのゆかいな動きと表情が魅力の、ポップな写真絵本です。